

「神の賜物と招きとは取り消されない」

2018年10月17日

ローマの信徒への手紙 11章 25節～32節 兄弟たち、自分を賢い者とうぬぼれないように、次のような秘められた計画をぜひ知ってもらいたい。すなわち、一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。次のように書いてあるとおりです。「救う方がシオンから来て、／ヤコブから不信心を遠ざける。これこそ、わたしが、彼らの罪を取り除くときに、／彼らと結ぶわたしの契約である。」福音について言えば、イスラエル人は、あなたがたのために神に敵対していますが、神の選びについて言えば、先祖たちのお陰で神に愛されています。神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順によって憐れみを受けています。それと同じように、彼らも、今はあなたがたが受けた憐れみによって不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今憐れみを受けるためなのです。神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったのです。

パウロは、オリーブの聖なる根から成長したイスラエル人の枝は折り取られ、異邦人の野生の枝が接ぎ木され、繁茂していると、宣教の状況を語った。しかし、接ぎ木された異邦人は折り取られたイスラエル人を蔑んではならない、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのである。また、折り取られたオリーブの枝は容易く元の木に接ぎ木されることができる。パウロはどこまでも、イスラエル人の救いを願っている。

そして、接ぎ木された異邦人に呼びかけている。「兄弟たち、自分を賢い者とうぬぼれないように、次のような秘められた計画をぜひ知ってもらいたい。すなわち、一部のイスラエル人がかたくなになったのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。」神は、異邦人全体が救われた後、全イスラエルを救うという秘められた計画を持っておられることを知ってほしい。異邦人全体、そして全イスラエル人も共に救われるというパウロの壮大な宣教論に圧倒される。

パウロは、このことは旧約聖書で預言されていると言う。「救う方がシオンから来て、／ヤコブから不信心を遠ざける。」この言葉はイザヤ書 59章 20節の「主は贖う者として、シオンに来られる。ヤコブのうちの罪を悔いる者のもとに来ると／主は言われる」を引用しているのであろう。次の「これこそ、わたしが、彼らの罪を取り除くときに、／彼らと結ぶわたしの契約である」という言葉は、エレミヤ書 31章の「新しい契約」を連想するが、ぴったり該当する言葉はないようだ。パウロは、罪を贖う神がシオン・エルサレムに来て、ヤコブ・イスラエルの罪を取り除くという契約を立てられると言っている訳である。

福音を受け入れないことについて言えば、イスラエル人は、異邦人のために、神に敵対しているが、神の選びについて言えば、先祖たちのお陰で神に愛されている。神の賜物と招きとは決して取り消されることはない。異邦人は、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順によって憐れみを受けている。それと同じように、彼らも、今は異邦人が受けた憐れみによって不従順になっているが、それは、イスラエル人自身も今憐れみを受けるためなのである。「神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったのです。」神はイスラエル人を不従順にしたが、それは、彼らを憐れむためであると、あくまでイスラエル人の救いを望んでいる。